



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編集 広報編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話 0422-55-1231 (代)
URL <http://www.musashino-sc.or.jp/>

215(新年)号 もくじ

- 加藤会長より新年のご挨拶、日本各地の「雑煮」… 1
- 干支会員よりご挨拶
むさしのSCトピックス …… 2～4
- わたしのふるさと… 5
- 武蔵野・ぶらり・時空旅… 6～7
- ひろば、新入会員、編集後記… 8



新年のご挨拶

会長 加藤 之義

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、センターの運営に対し会員のみなさまのご協力を賜り、順調に推移できましたこと深く感謝申し上げます。

昨年6月の社員総会で5名の新任理事が加わり、会員理事14名は毎月の理事会で活発な論議を展開し、充実した運営に邁進することができました。

昨年の夏は、過去に例のない猛暑が続き、連日の35度超えを記録、このまま冬が来ないのではと危惧されました。9月、10月の台風は風と大雨で甚大な被害が発生。千葉県では初めての台風上陸です。台風15号では特別警報を発表するほどの記録的な大雨はなかったものの、この被害の復旧が終わってないところで19号の大雨が発生、甚大な被害を受けました。住家被害は6万軒超、停電被害は77万軒超という未曾有なものでした。「想定外」に始まり「経験したことのない」「観測史上初」などのニュースが連日新聞紙面、テレビ画面に報道されました。我々を取り巻く環境は、何が起ころうとも不思議でない時代に突入した感があります。

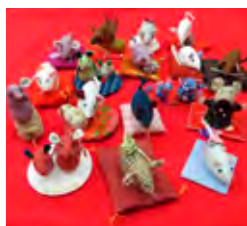
「人生100年時代」、我々はまだまだ生き続けます。「老後資金2千万必要」とのニュースもありました。地に足をつけた着実な、誠実な歩みが必要です。我々シルバーの会員として、すべてに対応していかなければなりません！人間の一人の力には限界があります。困ったときには、昔からの諺「いざという時は、遠くの親類より近くの他人」を思い出してください。シルバー人材センターは、目的を同じくする人（会員）の集まりです。就業を通じ、ボラン

ティア活動を通じ、会員参加の交流会を通じ、一人でも多くの仲間を作ることが大切です。「魅力あるセンター作り」⇒「会員拡大」とすべてを可能にする「契約先の拡大」が、今後10年、20年の道標（みちしるべ）となると信じ、みんなで周りの人たちに、シルバー人材センターへの入会を誘い、仲間づくりに参加するよう、呼び掛けていただきたいと願っています。

以上、令和2年の新春を迎え、年頭の挨拶といたします。



出展：文部科学省 HP



えと小物
(手芸小物班)

今年は子年(ねどし)

東京で2回目のオリンピックが開催される2020年は、日本にとって大きな節目となります。子年は新しい運気のサイクルの始まりです。植物に例えると成長に向かって種子が膨らみ始める時期であり、未来への大いなる可能性を感じさせます。

下記のテーマで寄稿をお願いしました ① 新年の抱負 ② 私の健康法 ③ 私の趣味

猪山典之

昭和11年生

(緑町)

②

天気の良い時は歩くことにしています。歩くのは無料でしかも健康に良いそうです。コースは武蔵関公園の池を一周して東伏見神社をおまいりして戻ります。1時間20分のコース。



江森壽見子

昭和11年生

(境南町)

②

今年年女の私まだまだ元気です。ボランティアの仲間、趣味の友とのおしゃべり、シルバーでの市報配付など、これは私の元気印の源です。毎朝のラジオ体操で、健康維持。



長田康正

昭和11年生

(境南町)

①

小学低学年、甲府に学童疎開。食事のままならず空襲であぜ道を逃げまどい、運よく今生きている。平和のありがたさ、飽食の時代皆様と共に健康でいられるように祈ります。



五味金四郎

昭和11年生

(境)

②

人は足から衰えるとのことで、自宅より職場まで週4日1時間程度、歩いて通勤してます。人はいずれ食物が飲み込めなくなるので、時々カラオケで昭和の演歌を熱唱してます。

齊藤悦郎

昭和11年生

(吉祥寺北町)

③

6月鮎釣りが始まり、以後10月末まで多摩川へ行きます。7月、8月に入る頃は20cmくらいになると、手に伝わる感覚も良く、9月に入ると、28cmくらいのが捕れ楽しい1日となります。

友成穂秀

昭和11年生

(吉祥寺東町)

①

新年は、高幡不動尊略歴表に「庚子閏歳」と銘記されています。抱負は「積小為大(二宮尊徳遺訓)」を敬愛、次の子年を仰ぎ、菊花や菜園作りに緊蹙一番挑む心意気だ。



星田正

昭和11年生

(吉祥寺北町)

③

元気いっぱいのはころはテニスとゴルフ三昧でしたが、最近では故郷のご縁で下手の横好きの俳句と油絵に親しみながら、クラシックの合唱と鑑賞の今日このごろです。



新井松雄

昭和23年生

(吉祥寺北町)

③

私の趣味はTV番組をブルーレイにダビングして集めることです。特に昔の映画などは何度も繰り返し見えています。感動がよみがえり、よき時代を懐かしく思っています。

井戸茂樹

昭和23年生

(八幡町)

③

私の趣味は合気道です。合気道は、力を入れずに相手を制する武術で、70歳代の人でも結構おり、普段使わない筋肉も鍛えられます。飲み会で、いろいろな人と交流もできます。



岡田三次

昭和23年生

(吉祥寺本町)

②

オリンピックの年。自分も少しは体を鍛えねばと思いつつ続かないのがメンタルの弱さ。楽しみは年に4回旧友と行く旅行。食事会で元気を充電することが健康の秘訣です。

川上淑子

昭和23年生

(西久保)

②

私の健康法は医学的なものではなく、大きな声をだすこと、大笑いをする事です。還暦を過ぎたら実年齢は関係ないでしょ。見た目若々しく、元気に見えることが一番です。



河野絹代

昭和23年生

(桜堤)

③

10数年前から小平合唱団に入り、初めて歌ったフォーレのレクイエムとモーツァルトのレクイエムはとても感動し悲壮感にもかされました。これからも歌を続けていきます。



菅野耕一

昭和23年生

(吉祥寺北町)

③

中国の歴史に関心があり、司馬遷の「史記」やそれを題材に小説化した宮城谷昌光の作品を読み、人生に対する啓示を受けた。今後も読書を楽しんでいきたい。

 吉 川 正 紀 昭和23年生 (吉祥寺東町) ③ 私の趣味はサクソフォンです。5～6年のつもりが10年を超えました。腹式呼吸・集中力・指運び等、シニア生活での補助動作にはうってつけなのではと思っています。	 熊 田 美 津 留 昭和23年生 (境) ① 明けましておめでとうございます。6回目の干支を迎えました。それなりに老けてきました。それでも気持ちだけは青年の気概で、7回目の干支を目指し頑張ろうと思います。	小 久 保 登 昭和23年生 (吉祥寺本町) ② 熱い46度ぐらいのシャワーを、腰・肩・足に5分か8分ぐらいかけ続けることで、腰・肩が楽になる。腰の痛みが少しずつ良くなりました。これからも続けてたいと思います。
小 林 茂 夫 昭和23年生 (八幡町) ③ 小学生のころより模型飛行機を作り、今も晴れの日には公園へ飛ばしに行きます。空気の力と飛行機の力が重なると、空高く昇ります。その時にめぐり会いたくて日々飛ばしています。	 小 林 努 昭和23年生 (境南町) ② 私は健康のため学生時代は登山、卒業後はゴルフ、テニス、スキーをやりました。今はテニスに集中し、年間300回以上やっており、健康である限り生涯続けるつもりです。	酒 井 孝 昭和23年生 (境) ③ 古いフジノンレンズが付いたデジカメを思わず買った。ポケットに入れているだけで、人にやさしくできる自分に驚きながら、またの出会いを願っている今日このごろです。
佐 藤 秀 一 昭和23年生 (西久保) ② 体に十分気をつけてるつもりでも、体に異変を感じたら、病院へ行って、健康診断を受けていきたいと思っています。	重 森 の ぶ 子 昭和23年生 (関前) ② 太極拳はゆっくりと動きます。体のクセ・弱点を鈍感な体はなかなか気づいてくれないが、正しい動作、一動全動身を体に学んでもらう努力が健康につながるのではと続けます。	杉 浦 悦 子 昭和23年生 (吉祥寺東町) ② 人生100年、いつまでも自分の足で歩き続けたいと週2回の筋トレ教室に通っています。お友達とのおしゃべりも元気の源です。これからも楽しんで過ごしていきたいです。
鈴 木 誠 次 昭和23年生 (西久保) ② 「ボケないために」④感謝する心 ⑤興味を持つ ⑥工夫する ⑦謙虚な心 ⑧好奇心	 高 石 好 子 昭和23年生 (境南町) ① シルバーでは市報配付で頑張っています。新年の抱負としては、ボランティア活動、趣味（登山、手芸、菊作りなど）毎日楽しく平穏で健康に過ごすことを願っています。	高 田 俊 夫 昭和23年生 (吉祥寺北町) ① 令和時代の高齢者は、ますます健康寿命の伸長と社会への貢献が求められています。ジム通いでの健康維持とシルバーの業務で、社会を支える一員であることを課してまいります。
佃 健 二 昭和23年生 (吉祥寺北町) ③ 趣味もドンドン手抜きに、努力なしでと映画鑑賞。吉祥寺にもシネコン登場？シニア料金もあり、なにより家では味わえない大音響最高。予告編でまたまた次のお目当て発見。	 葛 克 己 昭和23年生 (西久保) ② 私のモットーは、「動・笑・話」で心身共に健康！です。動とは健康維持のために体を動かし、笑とは笑って楽しく過ごし、話とは人と関わり話すことで頭を使うことです。	 中 谷 順 一 昭和23年生 (吉祥寺南町) ② 男の健康年齢は72歳に延びたとか。昨年11月に屋久島・宮之浦岳で百名山を達成しました。今後も趣味の野菜作りやシルバーの就労を続け、元気に暮らしていきたい。

難 波 光 子
昭和23年生
(吉祥寺南町)

①

今まで慌ただしく月日が過ぎたので、今年は、自転車が壊れたことをきっかけに、近くに住む姉と一緒に散歩することから始めようと思いましたが、三日坊主で終わらないように。



堀 井 隆
昭和23年生
(吉祥寺東町)

③

私の趣味というか好きなことは、雪の街歩きです。スキーに行っても早く終わって街に行きたい、温泉もとすぐ考えています。取りあえず今冬が待ちどおしいです。



松 本 吉 生
昭和23年生
(桜堤)

③

一時囲碁に夢中で、目をつぶると碁盤が出てくるほどです。今は時々ネット対局。山登りも10年程、とても楽しかったが、最近は回数減。今はテニスと卓球を楽しんでいます。

むさしのSCTピックアップ



- 10/8(火)・9(水) … 敬老福祉のつどいがありました。(武蔵野市民文化会館)
 10/19(土) …… シルバースポーツ大会に審判として参加しました。(武蔵野総合体育館)
 11/10(日) …… むさしの青空市にリサイクル班と小物班が出展しました。(むさしの市民公園)
 11/19(火) …… 第5地域会員研修会が「認知症」をテーマに開催されました。(武蔵野プレイス)
 11/20(水) …… 西部地区入会説明会が開催されました。(武蔵野市民会館)
 11/26(火) …… 料理に関する就業体験講習会が開催されました。(マノ料理学園)
 11/28(木) …… 自転車利用安全講習会に参加しました。(東京仕事センター)



シルバースポーツ大会



むさしの青空市



第5地域会員研修会



西部地区入会説明会



シルバー体験講習会

私のふるさと

—— 第21回 山口県 ——

下関市 有賀克明会員（桜堤）

周南市 久保田春奈職員



◆本州の西端、三方を海に囲まれ海・川・山・里の幸に恵まれた山口県出身のお二方、有賀さんは下関市（九州に隣接）、久保田さんは周南市（島根に隣接）と西と東で少し趣は異なる。

有賀さんはご両親と8歳下の妹の4人家族、生まれは長府で4歳のころ下関へ引っ越した。久保田さんは三姉妹の長女として生まれ、6歳までは祖父母と暮らしたそう。高校卒業後有賀さんは九州へ、久保田さんは上京された。

★どんなところで育ちになったのでしょうか？

有賀：山口は歴史を遡ると源平壇ノ浦合戦、武蔵vs.小次郎の巖流島のエピソードや高杉晋作、伊藤博文、フランシスコ・ザビエル…等々著名人は枚挙にいとまがありません。私が小さいころ遊び場だった「巧山寺」は、後で知ったのですが、高杉晋作が奇兵隊を挙兵した地。また、下関の赤間神宮（写真）には壇ノ浦で敗れて入水された平家の幼帝安徳天皇がまつられています。

久保田：そうそう、赤間神宮は朱塗りの水天門がとてもきれいです。

有賀：私が生まれた長府は、毛利の城下町として栄えた町で武家屋敷の面影は今も残っています。下関は交通の要衝として、明治から昭和にかけて急速に発展し、対岸の門司港には当時最先端の技術と意匠をこらした、いまではレトロと言える、近代建築が街並みに溶け込んでいます。



赤間神宮の水天門

久保田：私の方は広島寄りの気候温暖な周南の工業地帯で海までは20分くらいです。と言っても工場が立ち並んで、白砂青松ではありませんが、山も近くて蕨や薇摘みをしたり、自然豊かな遊び場に恵まれました。県内には、歴史を持った教会があるのが印象的です。日本のクリスマス発祥の地なんですよ。いくつかの教会へ行きましたが、隣接する島根県津和野町には珍しい畳敷きの礼拝堂もあります。

有賀：戦国大名の大内氏はザビエルを擁護したのでキリスト教布教の拠点になったんですね。サビエル記念聖堂（正式名称）には修学旅行で行きましたが大きくて立派でした。残念ながらその建物は火事で全焼して再建されました。

★今回は新年号なので、ふるさとのお正月について伺います。お雑煮は日本各地でいろいろなバリエーションがある（P.1参照）そうですが、どんなものですか？

有賀：雑煮はだししょう油味で丸餅、ニンジン（紅）や大根（白）を入れ煮たものです。昔は近所みんなで各戸から持ってきた餅米をついてそれぞれの家で丸めたもんです。焼き餅は砂糖じょう油をつけて食べたね。

久保田：そうですね、焼き餅は絶対に砂糖じょう油！辛味餅や納豆で食べるのは上京してから知りました。それから「小米餅」というのは精米した時に欠けた米粒を混ぜるのでツブツブ感が良いんです。粟餅やよもぎ餅も作りました。アンは甘いのもあるけれど塩味のアンコもあって珍しいと思います。お正月に限りませんが、よくおばあちゃんが作ってくれたのは「岩国寿司」と呼ばれる、桜でんぶやハス、人参、錦糸玉子などを散らした押し寿司です。

★下関と言えばフグが有名です。まさか、お雑煮には入れませんか？

有賀：そう、やっぱり虎フグは高級魚だからね。唐戸や南風泊の市場から全国へ流通しているけれど、親戚がいたから、いきのいいのが安く手に入った。フグは伊藤博文が「春帆楼」（料亭）で豊臣秀吉以来の禁を解かせて食べ、「福を呼ぶ料理」ということで全国に広まったそうです。

★他にお正月の風物や遊びの思い出は？

有賀：冬はこたつでみかん、瀬戸内でいっぱい獲れたからね。昔は堀ごたつだったけれど、練炭でね、潜り込んで寝ちゃったりすると大変、一酸化中毒になる！遊びはパッチン（めんこ）やってたー。

久保田：私のころはもう電気でしたよ（笑）。お正月の思い出はおじいちゃんに初詣で防府天満宮に連れてってもらったこと。福みくじはおみくじでなく、いわゆる福引きで賞品がありました。百人一首は子供でも分かる「坊主めくり」をしました。



久保田さんのご家族

◆関門海峡周辺は冬でも温暖で門司・下関の港町風情や城下町、レトロな街並みで歴史をしのびつつ散策したり、フグを始め関あじ・関さばなどいきのいい魚でグルメも大満足で人気観光エリアになっている。

（聞き手 編集委員：高山）

武蔵野・ぶらり・時空旅

21

吉祥寺北町 下谷 一廣

国木田独歩と武蔵野 (PART1)

「絆」でこのコラム「武蔵野・ぶらり・時空旅」を書き始めてもう5年になる。

初回(平成26年10月号)吉祥寺が“住みたいまちNo.1”という話題に関連して、武蔵野のイメージアップに大いに貢献した人物として国木田独歩の事に触れた。今回、国木田独歩と「武蔵野」について私なりに資料を集めその上で、独歩の著作物などを読んで感じたこと、さらに私自身が「へえー!」と思ったことなどをまとめてみた。独歩のことを書くと言っても昔々読んだ「武蔵野」の淡い記憶しかない。こんな時に強力なサポートをしてくれるのが地元



国木田独歩

の図書館のレファレンス・サービスである。次に列挙した著作物、写真集、資料を閲覧、貸出をしていただきました。まずは資料のご紹介。



1. 「武蔵野」武蔵野市民版と銘打たれた文庫本サイズ。 著者はもちろん国木田独歩だが校訂編纂者は野田宇太郎となっていて、ここに納められている独歩の著作は「武蔵野」「忘れえぬ人々」「獨歩吟・抄」と「欺かざるの記」の一節である。この本は、ほとんど前例がないと思われるが武蔵野市が野田宇太郎氏に依頼して発行したもので売価もついておらず、昭和40年に初版が2千部刷られ、その後増版され計4千部が世に出た。

国木田独歩に関する著作 野田宇太郎氏は文芸評論家で文芸誌の編集長でもあったので当時の文壇とも関係が深く、作家の知己が多かった。作家としても“文学散歩”という独自のジャンルを確立し、24巻に及ぶ人気シリーズが刊行されている。氏は戦前から吉祥寺南町に住んでいたという因縁もあって依頼されたと思われる。いずれにしても独歩の「武蔵野」がいかに武蔵野市の広報戦略で重要だったかが分かる。また野田宇太郎氏は丹羽文雄、柳田国男、亀井勝一郎とともに玉川上水に架かる桜橋のたもとに独歩顕彰のオルガン型石碑

建立(昭和32年)にも尽力。この本に収められている4篇のうち「欺かざるの記」は明治26年から約4年間の日記で独歩没後公開されたもの。「武蔵野」にかかわりの深い4篇をまとめて読んだおかげで独歩がどんな



オルガン型石碑建立

な想いでこの随筆を書いたのか、その心象風景や具体的に独歩がどこを歩き、どんな風景に心揺さぶられたのかが理解できた気がする。この本については後でもう一度取り上げたい。

2. 「武蔵野風物」 昭和18年出版の写真集。これを借りたのは独歩が散策したであろう武蔵野の風景がどの様であったかを確認するため。当然白黒の写真ばかりだが、明治・大正・昭和初期の武蔵野の面影が写し取られている。なかでも「**櫂の屋敷林**」村林忠撮影は詩情に満ちている。

この写真には昭和初期の早大国文科教授で詩情ある随筆家として有名な吉田弦二郎のキャプションが付いている。その冒頭部分は“**亭々聳ゆる櫂**、



櫂の屋敷林(イメージ)

大空一面に巨人のような手を広げて大気を呼吸する櫂こそ武蔵野の象徴である”(原文のまま) **ケヤキ**は日本固有の樹木だそうで他の国にはないとのこと。

私もケヤキこそが武蔵野を代表する樹

木だと思う。平成29年武蔵野市が調べた大樹(保護樹木に指定された)はケヤキが551本、次は桜で384本、3番目がコナラで147本ということだそうである。

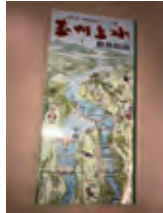
3. 明治26年の地図 大判の地図帳がありその武蔵野版で独歩が歩いた甲武鉄道の境駅(現武蔵境駅)周辺から国分寺までを地図記号を頼りに当時の景色をイメージしてみた。

4. 「玉川上水」散策絵図 村松昭 アトリエ77

この絵図は村松氏が実地に歩いて絵にしたもので、この絵図は独歩が散策したと思われるところ

をなぞって歩くときにとっても役に立った。

独歩とは関係なく玉川上水沿いを散歩しようとする人にとってもまことにきめ細かで、書き込まれたイラストも楽しくウォーカーにはお薦めの一冊である。



「玉川上水」
散策絵図

5. 「国木田独歩」 福田清人著 明治書院

この本は独歩の評伝。自分の知識が不足しているため読んでみたところ意外なことが書いてあった。ご紹介します。

“独歩の先祖は武蔵国出身”であったというのである。

当然独歩自身は知らないまま亡くなったのであるが因縁話のようで興味深い。事の顛末はこうである。昭和32年兵庫県たつの市で「独歩没後50年祭」が実施された。なぜたつの市でこのようなイベントが開催されたのかというと独歩の父が旧龍野藩（藩主・脇坂侯）の藩士であったからだそう。無理やり独歩とたつの市を結びつけた感じがするがそれはともかく、これが実施された後で龍野藩・藩士の系図が発見され国木田家もその系図の中に入っていた。この系図を歴史学者・関西学院大の藤木喜一郎氏が国木田の原姓をたどり、鎌倉時代の武蔵七党に属した豪族の一つ横山党の中に梶田姓を名乗る一族がいて、この一族の末裔が国木田専八（独歩の父親）だというのである。確かに辞書を見るとクヌギ＝櫟＝梶田となっている、そこで梶田（くぬきだ）→梶田→国木田（くにきだ）となったと藤木先生は説明されています。興味のある方は福田清人著の「国木田独歩」をご一読ください。詳しく解説されています。

6. 国木田独歩 略歴

簡単な年譜をご紹介します。

明治4年（1871）生 本名国木田哲夫、明治41年（1908）没 36歳、小説家、詩人、ジャーナリスト、編集者。

明治27年（1894）徳富蘇峰の「国民新聞」の記者として日清戦争の従軍記者となりルポルタージュを発表し“記者・国木田哲夫”として一躍有名になる。帰国後、日清戦争従軍記者・招待晩餐会ばんさんかいで知

り合った佐々城信子と熱烈な恋におち、佐々城家の大反対を押し切り結婚するが1年足らずで破局した。しかし信子との出会いと明治28年に連れ立って散策した武蔵野への小旅行は明治31年「国民之友」社から「武蔵野」発表時は「今の武蔵野」として結実する。

7. 「古典百名山」 平田オリザ（劇作家・演出家）が読む国木田独歩「武蔵野」（2019年9月朝日新聞に掲載されたコラムから抜粋。）

『武蔵野』は私見だが、文学史的な位置づけとしては、言文一致体で書かれた最初の随筆と言ってもいいだろう。明治の近代小説がそうであったように、ここにも「近代的自我」が登場する。＜中略＞『武蔵野』では風景を描写するだけで、作家の内面の寂しさや哀しさが伝わってくる（とその当時の青年たちは感じた）「寂しい」「悲しい」とことさら書かなくても、作家の心情が痛いほど解る。これはやはり画期的なことだった。ただし『武蔵野』は、世間一般ではあまり高く評価されなかった。広葉樹林の描写が淡々と続くだけだから、それは当然だったろう。文壇での評価は高まっていたが、彼は文学から距離を取り、編集、出版事業に力点を置くが出版不況で破産状態まで追い込まれ、最後には肺病を病み、36歳で早逝する。皮肉なことに死の前後から独歩の評価は高まり自然主義運動の中心的存在となった。

最後に「武蔵野」を読んで、自身の感想を少し「平田オリザ」氏は“広葉樹林の描写が淡々と続くだけ”と書いているが武蔵野の雑木林の描写は格調があり、これを読めば是非にも独歩の歩いた時代の武蔵野を散策したいと思わせる。

今回は独歩と「武蔵野」の周辺情報だけで紙幅が尽きてしまいました。

次号では「武蔵野」に絞っていくつかのエピソードを書く心算です。



雑木林

施設管理を通じて生まれた「ご縁」

小学校の施設管理の仕事に従事して、早や2年。仕事そのものには慣れましたし、施設利用の団体の皆さん方や、教職員の方々とも、何とか良好なコミュニケーションを築けるようになりました。でも、下校時間が過ぎた16時からの勤務とあって、肝心の主役としての生徒、子どもたちとのコミュニケーションは、残念ながらほとんどないのが実態です。そんな時、うってつけのイベント「はとの子発表会」があるのを思い出し、勤務日ではなかったのですが、ちょっとのぞかせていただきました。



「私たち、一生懸命、頑張ったよ！」

奇数学年は「合唱と合奏」、偶数学年は「劇」を発表するという、昔でいうところの「学芸会」と「音楽会」を一緒にしたような催し。1か月以上前から、一生懸命に練習していた成果を、みんなの前で発表する場。普段、接すること少ない生徒たちのキラキラ輝く姿と、それを見守る保護者の皆さん方の満面の笑顔を見て、ご指導されてきた先生方のご苦勞を思い、施設管理の仕事を通じて生まれた「ご縁」の大切さを実感させられたひと時でした。

境 加藤力弥



プログラムも
手作り感が満載

編集後記

昨年は、5月に天皇陛下が即位され「令和」に改元されました。国内では、台風15号や19号などによる大災害があり、アマゾンの森林火災や地球の温暖化など深刻な問題が続いています。

9月にラグビー・ワールドカップ日本大会が開幕し、日本は初めて8強になり俄かファンも増え、ラグビー熱が大いに盛り上がりました。また11月にはプレミア12で稲葉監督率いる侍ジャパンが、優勝決定戦で韓国を破り初優勝しました。同じ11月、ローマ教皇が来日され広島・長崎で演説、世界平和と安定のため核廃絶を訴えました。

武蔵野シルバー人材センターでは、交流会が発足しました。会員同士のコミュニケーションを図りつつ、令和2年がシルバー人材センターと会員の皆様に良い年でありますように心からお祈り申し上げます。 (南町 小坂 強)